



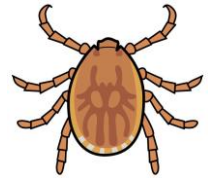
# 5月号 保健だより

令和元年5月  
愛媛県立大洲高等学校

マダニによる感染症に注意しよう！

## ★マダニとは？★

マダニは、固い外皮に覆われた比較的大型のダニで、衣類や寝具、食品などに発生するダニとは、全く種類が異なります。その大きさは、吸血前で3～8mm、吸血後では10～20mm程度になります。主に、森林や草むらなどの屋外に生息しており、飼い犬等に付着している場合もあります。春から秋にかけて活動が活発になり、皮膚の柔らかいところ（わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭など）に咬みつき、長時間（数日から、長いものは10日以上）吸血しますが、ほとんど痛みやかゆみを感じないため、咬まれたことに気が付かない場合も多いと言われています。



咬まれると、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）や日本猩紅熱などの感染症になることがあります。

## ★重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは？★

SFTSウイルスに感染することによって引き起こされる病気です。ウイルスを保有しているマダニに咬まれることによって感染します。

＜潜伏期間＞ マダニに咬まれてから6日～2週間

＜症状＞ 発熱、倦怠感、おう吐、吐き気、下痢、腹痛など  
重症化して死亡することもある。



平成25年1月に日本国内で初めて患者が確認され、その後、西日本を中心に患者報告が続いています。愛媛県では、令和元年5月12日現在30人の患者報告（うち死亡9人）がありました。県内の地域別では、南予が21人と、全体の7割を占めています。

## ★マダニに咬まれないために★

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などの感染を防ぐには、マダニに咬まれないことが重要です。森林や草むら、畑などに行く場合は、次のことに気を付けましょう。

- 肌の露出を避ける。  
（長袖・長ズボン・帽子・靴下などを着用する、首にタオルを巻く）
- 防虫スプレーを利用する。
- 帰宅後は、上着類を家の外で脱ぎ、すぐに入浴して、マダニに咬まれていないか確認する。



## ★マダニに咬まれたら★

皮膚に吸着しているマダニを無理に引き抜こうとすると、マダニの体の一部が皮膚内に残ったり、マダニの体液を逆流させたりするおそれがあります。マダニを手でつぶしたり無理に引き抜いたりせず、医療機関で処置をしてもらってください。また、森林や草むらなどに出かけた後に、発熱や食欲不振などの症状があった場合は、早めに医療機関を受診してください。